

釧路市教育委員会 令和7年第13回6月定例会会議録

1 日時：令和7年6月27日（金）10時00分から11時20分

2 会場：釧路市学校給食センター 研修室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、竹内スポーツ課長、鈴木動物園長、平野ふれあい主幹、長谷地音別教育事務所長、小松総括係長

4 議事録署名人 山口委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）令和7年第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について

（2）令和7年第4回釧路市議会6月定例会の審議内容について

（3）義務教育学校開校準備協議会（桜ヶ岡地区・音別地区・大楽毛地区）の開催結果について

（4）ふるさとキャリアシンポジウムの開催について

（5）あすなろ会こども遊学館（釧路市こども遊学館）開館20周年記念事業について

（6）アムールトラ「ココア」について

（7）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

- (1) 令和7年第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について
- (2) 令和7年第4回釧路市議会6月定例会の審議内容について

(司口学校教育部長)

報告事項1、令和7年第4回釧路市議会6月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会において承認いただいた、2件の補正予算案及び議案第64号の「釧路市語学指導外国青年招致に関する条例の一部を改正する条例」、議案第66号のGIGA端末に係る「財産取得の件」のほか、議案第72号から第76号及び第78号から第80号の大楽毛学園、音別義務教育学校の建築等及び釧路市学校給食センター、旧図書館、旧科学館の解体に係る「工事請負契約の締結に関する件」については、すべて原案どおり可決された。

続いて報告事項2、令和7年第4回釧路市議会6月定例会の審議内容について報告する。

令和7年第4回釧路市議会6月定例会の一般質問については、市民連合議員団板谷昌慶議員より「釧路市の環境保全施策及び子どもたちの居場所づくりについて」、公明党議員団松原慶子議員より「高等学校の在り方及び学校教育環境の整備について」、日本共産党議員団小山秀人議員より「地元を夢を持つ教育について」、市民連合議員団宮田議員より「学びの環境と生活環境の化学物質及び学校での集団フッ化物洗口について」、日本共産党議員団西村雅人議員より「小中学校のトイレに生理用品の設置について」、無所属木村隼人議員より「太陽光発電施設及び学校給食について」、創志会大越拓也議員より「PTAの任意加入化に伴う学校現場の現状と教育委員会の責務及び学校再編における歴史と伝統の継承について」、日本共産党議員団村上和繁議員より「柳町パークゴルフ場について」、日本共産党議員団梅津則行議員より「釧路市アイヌ施策推進地域計画及び教育行政について」それぞれ質問をいただき、答弁を行った次第である。なお、詳細については、資料5～31ページの質疑要旨のとおりとなる。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

- (3) 義務教育学校開校準備協議会（桜ヶ岡地区・音別地区・大楽毛地区）の開催結果について

(三浦教育政策主幹)

報告事項3、義務教育学校開校準備協議会（桜ヶ岡地区・音別地区・大楽毛地区）の開催結果について報告する。

初めに5月の定例教育委員会にてお知らせしていた、桜ヶ岡地区義務教育学校開校準備協

議会の開催結果について報告する。昨日２６日１８時半から、桜ヶ岡中学校において、第１回目となる開校準備協議会を開催した。当日は委員１８名中１名欠席、１７名の皆様に出席いただいた。会議では初めに岡部教育長より各委員へ委嘱状の交付が行われ、続いて会長・副会長の選出後、事務局より会議の公開に関する方針、今後の協議会スケジュール、協議会ニュースの発行や配布方法、また新しい学校名の決定方法などについて順次説明を行い、委員の皆様からご意見をいただきながら協議を進め、１回目の会議を終えた。なお、次回２回目となる会議の開催は、８月または９月を予定しており、それ以降の開催については、配布資料に記載のスケジュールを基本に進めていき、令和１０年度の開校に向け、しっかりと協議を重ねてまいりたいと考えている。

次に、資料上段が先月２９日に音別地区にて開催した第７回目の会議概要、下段が今月６月２日に大楽毛地区にて開催した第７回目の会議概要となっている。音別・大楽毛両地区の会議において、今回は開校記念日、校旗デザインについて協議をいただき、資料にあるとおり、それぞれ開校記念日、校旗デザインについて、決定したところである。また、両教育委員会からは、小学校・中学校との連携した取組の状況や、決定した制服やジャージについての報告があり、事務局からは、改めて工事スケジュールについて説明を行ったところである。なお、大楽毛地区においては、スクールバスの経路や運営方法、大楽毛３丁目付近の安全な通学路について協議を行ったところである。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(山口委員)

釧路市がめざす学校のすがた基本計画に基づき義務教育学校が合計６校、義務教育学校にならないところは小中連携を密に進めていくということであり、子どもたちにとっての快適な学びの環境をどういった形で実現していくかということが釧路市がめざす学校のすがた基本計画であると思う。そういった流れの中で、小中ジョイントプロジェクトはどの中学校区も、先生方が一生懸命取り組み、一定の成果があがっていると思っており、今後はさらに充実、発展してほしいと思っている。また２校の義務教育学校が来年度立ち上がる中で、義務教育学校を開設して良かったとみんなが思えるような形で開設して欲しい。桜ヶ岡地区の取組は具体化してきたので大楽毛と音別に続き、子どもたちにとってより良い形で進むよう、取組を展開してほしいと考えている。そのためには各先生方の努力も必要だと思う。よろしくをお願いしたい。

(岡部教育長)

昨日、桜が丘中学校で、朝陽小学校・東雲小学校・桜が丘中学校の義務教育学校開校準備協議会を立ち上げたときに、１点提案をいただいた。内容としては、校名をまもなく募集していくが、この校名について子どもたちの授業の中で検討させてはどうかというものであった。現在、釧路市教育委員会ではふるさとキャリア教育を進めており、そういった中で自らが学校名を考えるとというのは、ふるさとキャリア教育に合致するものであることから、即

座に行っていく旨を回答させていただいた。取り上げるタイミングは各学校に任せるが、授業で取り上げている場面取材したいという話も出ているため、協力をお願いしたい。

(山口委員)

過去、学校統合における校名検討の際にも子どもたちの夢が広がる校名が良いのではないかという意見があった。今回も子どもたちの夢が膨らむような校名の実現を期待している。

【公開案件】報告事項

(4) ふるさとキャリアシンポジウムの開催について

(大島学校指導課長)

報告事項4、ふるさとキャリアシンポジウムの開催について報告する。

中学校1年生を対象に、望ましい職業観や勤労観を養い、中学校3年間のキャリアプラン形成の一助とすることを目的に、オンライン形式によるシンポジウムを開催する。今年度からは、ふるさと釧路への理解と愛着を深めながら、自分の将来の生き方や働き方について考える機会とし、自身のキャリア形成を思い描く中で「ふるさとで働くこと」をより意識する内容となるようアップデートする予定であり、名称もこれまでのキャリアシンポジウムに「ふるさと」をつけ、ふるさと教育とも連動した取組として充実させてまいりたい。開催日時は、7月8日(火)の10:15～11:15を予定している。会場は各中学校の教室などと釧路市中央図書館の多目的ホールをオンラインで中継し、星野敦生JC理事長、岡部教育長がパネラーとなり、「働くこと」と「生きがい」「ふるさと釧路のよさ」をテーマに、中学校1年生に対してメッセージをいただく。コーディネーターは、森敏隆統括的な地域学校協働活動推進員が務める。なお、シンポジウムの模様は動画で記録し、今後の成果の検討などに活用する。本シンポジウムを契機に、中学生の子どもたちが「何のために働くのか」を自分の言葉で表現できるようになるなど、主体的に将来の生き方や生活につながる進路選択を実現できる資質・能力を身に付けるとともに、地域の魅力や可能性、課題に気づき「ふるさと釧路」の大切さを再認識できるよう、今後もJCとの連携協定を基本としながら、ふるさとキャリア教育を進めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(大山委員)

名称に「ふるさと」がついたということで、また一段と私たちが考えているキャリア教育に近づくのではないかと期待をしている。今年度、教育委員はシンポジウムを聞いている中学生の姿を見たいことから、共栄中学校に依頼し子どもたちと一緒にシンポジウムを見せいただき、その後教室での指導の様子も見学したいと思うので、よろしくをお願いしたい。

(小出委員)

新中学1年生が参加しているのにもかかわらず、毎年パワーアップしており、大変充実し

たものになっている印象がある。キャリア教育というのは、仕事を通して自分の人生の生き方を考えていくことかと思うが、仕事だけにとらわれず、子どもたちが自分の人生をこれからどう歩んでいくのかということを考えながら取り組んでもらいたいと思う。

(岡部教育長)

君たちに頑張ってもらわないと釧路市は駄目になるという話をしようとは思っていない。どういった将来があってもそれは1人1人の思いであるが、その中で子どもたちに選択肢の1つとして釧路市を選んでもらえるようなまちづくりを大人はしなければならない。それを踏まえ子どもたちには、釧路市により愛着を持っていただくというのが私からのテーマである。昨年とタイトルは変えているが、方向性は変えていない。今年は星野理事長と私と画面の向こうは約1,000人の中学1年生となる。よろしくをお願いしたい。

【公開案件】報告事項

(5) あすなろ会こども遊学館（釧路市こども遊学館）開館20周年記念事業について

(内海生涯学習課長)

報告事項5、あすなろ会こども遊学館（釧路市こども遊学館）開館20周年記念事業について報告する。

平成17年7月に開館した釧路市こども遊学館は、7月9日（水）に開館20周年を迎える。これを記念して、7月26日から8月24日までの夏休み期間中を中心に、開館20周年にまつわる様々なイベントを実施する。詳しいイベント内容についてはチラシの中面をご覧ください。まず開館記念日の7月9日より、市民の皆様から集めた写真を素材に制作した、巨大モザイクアートの展示をプレイイベントとして実施し、その後7月26日には「みんなでお祝い！20周年セレモニー」と題したオープニングイベントを行う。このセレモニーを皮切りに、8月24日の夏休み最終日に至るまで、実験や工作、天文など週替わりのテーマで子どもを対象としたイベントを毎日開催する。また、8月2日には遊学館の象徴ともいえる全天候型砂場を使った砂遊びのワークショップ、8月9日、10日にはオーロラメッセンジャー中垣哲也氏によるオーロラ投影公開、9月14日には日本の天文学研究の第一人者である渡部潤一先生によるサイエンストークなど、親子やご家族と一緒に楽しめるイベントもあわせて開催していく。そのほか「20周年オリジナル記念グッズ」の販売や、「プレゼント抽選会」、開館からの20周年の足跡を紹介する企画展など、多彩なイベントを計画しているので、この機会に多くの皆様に足を運んでいただけるよう順次、準備を進めていく。なお、添付してあるイベントチラシは、7月1日に遊学館のほうからプレスリリースを予定しており、それ以降に一般公開を行なう予定となっている。そのため、チラシに記載されているQRコードの申込みフォームなどは、現時点では一部準備中の箇所もあるため、ご了承ください。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(小出委員)

「学校の先生がサイエンスショーにやってくる！」というのがあるが、これは市内の教員が遊学館でサイエンスショーを行うということか。

(内海生涯学習課長)

教員と教育大学の学生に協力をいただきながら7月27日から8月3日まで毎日公開する。

(小出委員)

教員は小学校、中学校どちらか。

(内海生涯学習課長)

小学校だと思うが、まだ確認が取れていない。

(小出委員)

自分の学校の先生が出るということを周知して行ってもらえたら楽しい催しになると思う。

(靱山委員)

遊学館は子どもを連れて利用させていただき、いつも楽しませてもらっている。子どもの付き添いで行っているが、結果大人も非日常を楽しむことができる場所だと思う。皆様ご存じの通り、0歳児でも楽しめるスペースやイベントがあり、また小中学生が冬でも汗をかきながら全力で遊んでいる姿や、五感を使った学びの場があり、今回も企画されているが大人向けのイベントがあるなど、多世代の方が楽しめる場所で、とても素敵な場所であると思っている。先ほどの説明で砂場の話題があったが、東京の友人が雑誌に掲載されている遊学館を見て、釧路へ遊びに来た際に遊学館の砂場で子どもを遊ばせた時にこんな施設は東京にはないと大絶賛であり、改めて砂場の魅力を感じた。20周年ということでいつも以上に大きなイベントになると思うが、引き続きよろしく願いたい。

(山口委員)

小学生、中学生への周知について、できるだけ多くの方々に知っていただくために学校への呼びかけなどは具体的にどのように考えているのか。

(本川教育指導参事)

まだ行っていないが、先ほどあったサイエンスショーについては各学校の教職員向けに案内をしており、この後の報告にも出てくるが学校教育部、生涯学習部のみならず庁内の教育に関係する部署との連携を図りながら、配信メール等で周知を行っているところである。今回の件についても学校に対し周知依頼をしていきたいと考えている。

【公開案件】報告事項

(6) アムールトラ「ココア」について

(鈴木動物園長)

報告事項6、アムールトラ「ココア」について報告する。

「ココア」は2008年5月24日に釧路市動物園で生まれた17才のメスである。3つ

子として生まれたが、当時の動物園職員が発見した時点で仮死状態であったため、職員が懸命に蘇生を試み、2頭が一命を取り留めた。その2頭がオスの「タイガ」とメスの「ココア」である。2頭は生まれつき後ろ足に「軟骨形成不全症」という骨の変形や骨の成長不全である障がいがあった。タイガは1歳3か月で亡くなったが、ココアはタイガ亡き後も日々を強く生き、釧路のみならず、全国の皆様から愛していただいた。昨年末から体調を崩し、治療に専念のため今年4月に展示を中止していたが、回復傾向が見られたことから2週間後に展示を再開した。しかしながら6月に入り体力の低下が著しくなり、17日に展示中止、18日夜に死亡を確認した。解剖結果から死因は老衰であった。障がいがありながらも17才まで長生きし、天寿を全うしてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいである。動物園には「レクリエーション」「教育」「種の保存」「調査・研究」という4つの目的がある。日本の動物園で初めて障がいのあるトラを飼育・展示し、動物園は学びの場であることを、ココアの生きる姿を通して伝えられたのではないかと思います。

なお、7月21日（月・祝）午前11時から、動物園猛獣舎前にて、お別れ会「ありがとうココア」を実施する。担当飼育員やココアが生まれた当時の園長がココアへの思いを語り、お越しいただいた皆様に献花をしていただくことなどを予定している。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

（大山委員）

最後までココアのお世話をしていただき、動物園職員の皆様に感謝する。SNSに掲載されているココアの写真も大変良い写真で懐かしく感じる。釧路市の子どもたちにとって良い学びの場になったと思う。

（小出委員）

SNSを拝見させていただいた際に、落ち葉の上でココアがくつろいでいる写真があり、飼育員とココアの信頼関係や愛情を感じる写真があった。コメントを見ても全国の方から追悼と感謝のメッセージがたくさん届いており、ココアが多くの方々に勇気や元気を与え、またココアも多くの方々から愛情や応援を受けていたのだと感じた。市内の子どもたちも、総合的な学習等で動物園に行くことがあったかと思うが、生き物の命の大切さを学ぶことができたのではないかと思います。頑張って生きてくれたココアと、献身的にサポートしていただいた動物園の方々に感謝したい。

（山口委員）

タイガとココアが生まれた際に、当時の市長と園長が障がいを持って生まれた動物を助け、展示することが良いものなのかを悩んだ結果、それも命の大切さを教えるために大切なことであるということで、助けることを選択し、ここまでココアが天寿を全うした。ココアには感謝と動物園の皆様には本当にご苦労様でしたと伝えたい。

（岡部教育長）

2008年5月24日、当時の伊東市長が東京出張から夕方の飛行機で釧路市に帰ってく

るというタイミングであった。私は秘書課に所属していたが当時山口園長から障がいを持ったアムールトラが生まれたと電話が入った。空港にいた伊東市長に電話をかけ、空港から直接動物園へ行っていただき、2頭の対応について動物園職員と協議の上、決定していた。私も7月21日のお別れ会に出席したいと思っているので、よろしく願いたい。

【公開案件】報告事項

(7) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項7、学校の現状について報告する。

6月に入り終盤を迎えているが、各小学校では運動会シーズン真っ盛りということで、これまでに22校が天候にも恵まれ無事終了しており、残るは4校のみとなった。また、来年度義務教育学校になる音別小学校と音別中学校は今年の4月から音別小学校の校舎の中で一緒に生活をしているが、運動会と中学校の体育祭を6月21日に合同で開催したと報告を受けている。また、もう少し先の義務教育学校予定の阿寒小学校と阿寒中学校も7月5日に合同で、こちらは幼稚園や阿寒高校も関わって、地域の行事ということで企画をしている。

中学校・義務教育学校後期課程の修学旅行については、14校全てが終了している。7月にかけて、現在中体連の各競技が毎週末のように実施されている状況である。5月から各種学校訪問を実施しているが、授業の中で子どもたちが話し合う場面やタブレットを使う場面などが増えてきており、全体的に授業改善は昨年度よりも進んでいる感じを受けた。一方で、中学校を中心に旧態依然とした授業スタイルが見られ、授業改善に向けて個々の先生は行っているようだが、学校としての一体感があまり感じられない学校も散見しているのに加えて、話し合いの場面やタブレットは使用しているもののその目的意識がこちらには伝わっていない、また子どもたちに伝わっていない場面も少なくないことから、引き続き全市的な授業改善に向けては教育委員会も力を入れて取り組んでまいりたいと考えている。関連して、指導主事による示範授業は昨年度からスタートしているが、今年度はすでに3、4校で実施している。また、夏休みまでに何本か入っており、7月中には7、8回行う予定で取り組んでいる。また、授業マイスターの授業については、春採中学校のマイスターである大内先生の授業を興津小学校に提案したところ、逆に興津小学校からマイスターの先生が毎日行っている春採中学校での普段の生徒とのやり取り、空気感を一緒に見たいという要望があり、大内先生においてもそれを受け、9月に調整して行うということで、併せて桜が丘中学校にも声をかけ、春採中学校区の研修として進めたいということで調整をしているところである。

8月以降のALTが、現在の5名体制から15名に増員される。全部で16名、1名は北陽高等学校専属で、小中学校では15名、配置については最終的ではないがほぼ決定に近い案で掲載させていただいた。原則、中学校区ごとに同じALTが巡回するという形で今回計画したが、学級数が非常に多い4中学校区においては、1名だと中学校だけで小学校に手が及ばないことから2名体制ということで、このような配置計画を考えた。それに伴い一部ベ

ース校を小学校にも配置し、現在準備を進めているところである。

市民生活課の所管事業だが、今年は戦後 80 年の節目の年を迎えるにあたり、8 月に広島市を訪れる訪問団が、市民が折った千羽鶴を奉納することになっている。各学校にも紹介し呼び掛けたところ、複数校から担当課へ問い合わせがあつて、取り組んでいると伺っている。

また先日も触れたが、生涯学習課の所管事業で文部科学省委託事業である「読書のまちづくり推進事業」については、中学生がビブリオバトル大会、小学生が読書紹介カードの募集、加えて小中義務教育の先生方向けに中央図書館の協力を得て研修等学校教育も協力をして準備を進めているところである。

◎この報告について、各委員から次の通り発言あり

(山口委員)

資料に掲載している教育職員免許法認定講習について質問がある。特別支援に係る免許を持っていない教員、また特に中学校では技術科・家庭科に係る教員数の不足というのは課題になっており、それが釧路市で開催されることは非常に良いことだと思うが、これは希望者を待つものなのか、それとも具体的にアクションを起こし、多くの方に参加してもらうような取組は考えているのか。

(本川教育指導参事)

特別支援に係る免許については、これまでも道教委や市教委としても各学校の特別支援学級の担当の先生で免許を持っていない先生は、この認定講習等を活用して免許を取得するようこれまでも働きかけている。実際に特別支援の認定講習については毎年釧路市で開催していることから、小中学校の先生方で特別支援に係る免許を所有していない多くの先生が夏休みに受けている。また技術科・家庭科の講習については今まで釧路市で開催されていないが、この夏、道教委により釧路市で開催をしてもらうことになった。これは技術科の先生が中学校、高等学校でも少ない状態であるためである。退職された教員等にも声をかけているのだが、技術科については退職された先生方が経験してきた時代と異なり、情報教育が入ったことにより、技術科の免許を持っていたとしても教えたことがない、教える自信がないということで断られているのが現状である。そういったこともあり今回、道教委にて技術科・家庭科の認定講習を釧路市で開催することになり、中学校の校長から各教員へ周知を行っているところである。

(山口委員)

本件はすぐに解決できる問題ではないが、免許を持った美術科の教員が複数校掛け持ちで授業を行っているという例もある。技術科のうち情報教育に係る部分は同様に、複数校掛け持ちで授業を行うことも、今後検討する必要があるのではと思う。

(本川教育指導参事)

技術科・家庭科・美術科等については、授業時数の縮小や、学級数の減少により複数校を巡回する配置しか出来ないという事情もある。

(鈴木北陽高等学校長)

続いて、北陽高等学校における学校の現状について報告する。

総合的な探究の時間の改善に係る取組について、総合的な探究の時間とは、先ほど話が出ていた小中学校の総合的な学習の時間の高校版のようなものである。総合的な探究の時間とは、生徒が自分で問いを見出し、課題を設定しその課題の解決に必要とされる情報を自分で集め、それを整理分析して最終的に答えを出していくという大学生が行う研究活動、卒論の縮小版のような活動をイメージしていただければ良いかと思う。現在の北陽高等学校は、こういった学習指導要領の中身とは若干乖離した内容で行われていたという現状であった。そこでこの現状を踏まえ、私があげた課題として、まず1つは学習指導要領に定める目標に沿ったものにしていきたいと考えている。また学校教育目標の実現に資するような内容に改善する必要があると考えた。もう1つは探究のプロセスがしっかり効いた内容にしていく必要性があると感じている。改善の方向性として考えているのは、1から学習計画を作らなければならないということである。その方向性の柱として考えているのは、北陽高等学校のスクールミッションは、国際的な視野を持った人材を社会に提供するということから国際理解教育に力を入れるということになるが、そういった生徒を育てるための総合的な探究の時間でありたいと考えている。それを踏まえて具体的に学習計画を立てていくことになり、その方向性を資料に掲載している。まだ構想段階ではあるが1年生段階で身近な課題、Local Issueとして、例えば釧路で生活する外国の方々、その人たちの多様な価値観はどういうものがあるかといったテーマ感を持って探究活動をすることや、2年生段階ではGlobal Issue、地球的課題に視野を広げて、今あらゆる場所で起きている地球的課題をテーマとして探究活動・研究活動をしていく。こういったグローバルな活動を行っていくことで、先ほど申し上げたスクールミッション、国際的な視野を持った人材育成というところに結びついていく。こういった具体感を持って総合的な探求の時間を作っていきたいと考えている。1・2年生でそういったグローバルな活動をした後に、3年生は進路活動に向かっていく。3年生の活動はあくまで自分が行いたいこと、自分の進路活動と結び付けられれば良いと考えており、例えば大学で法律を学びたい生徒については法律に関する研究活動を行い、金融機関に就職したいと考えている生徒は経済問題について、また警察に就職したいと考えている生徒は日本の犯罪の特徴について考えるなど、自分の進路に関すること、純粋に自分の興味・関心のあることについて卒業論文を書くようなイメージで課題・研究活動を行えばと考えている。こういったことを3年生で実施することで、就職する生徒においては自分の就職試験で研究活動を面接のアピールに活用し、専門学校では専門学校での学びを踏まえた予備知識を得ることができると思っている。また最も期待しているのが国公立大学合格者の増加である。現在総合型選抜という形で、こういった課題研究活動をそのままPRしながら大学に飛び込んでいくという手法により合格者が増加しているためそういった点を狙いつつ、総合的な探求の時間を展開できればと考えている。これらの探究活動を実現できた際には、情報収集や成果発表の場で地域の方やで教育関係の方々に協力いただくこともあると思うの

で、よろしくお願ひしたい。まだ構想段階で動き始めるところであるが、形にしていきたいと思っている。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(山口委員)

総合的な探究の時間をしっかりまとめてくれたと感じている。生徒が3年間、自分自身をこのようにステップアップさせながら、将来のためにこの段階ではここを頑張らなくてはならないという3年後の姿を意識できるよう、そこまで落とし込む必要がある。そのためには校長の構想を教員が十分理解し、生徒へしっかりと説明し理解することが必要かと思うが、その辺の見通しはどうか。

(鈴木北陽高等学校長)

教員と一緒に計画を作っていくことが大事だと思う。実際に生徒へ指導するのは教員であり、教員がこの計画に愛着を持たなければ熱の入った指導にはならないと思う。自分で全てすることはできるが、時間がかかってでも教員と一緒に計画を作っていくことが大事だと思う。今は理想を述べているだけであるため、どこまで現実できるかわからないが、一緒に作っていきたいと考えている。プロジェクトチームはできており、有志で集まってくれた教員を中心に作っていきながら、全体に落としていく形となる。

(山口委員)

今回校長からこういった提案を聞き、高校生でもここまでできる可能性があるのだと感じた。高校生がここまでできるのであれば中学校ではこれに向けて、さらに小学校もつながっていくのではないかと考えている。今回北陽高等学校がこういった形で変わっていくということを見せていただき期待しているので、よろしくお願ひしたい。

(鈴木北陽高等学校長)

総合的な探究の時間は指導が難しい。理由としては高等学校の教員が一斉型授業に慣れていることから、こういった伴走型指導というイメージを持ってないことが考えられる。但し多くの高等学校の教員は大学生の際に卒業論文を書いているはずなので、その経験からできていると思っている。これは特別なことを実施しようとしているわけではなく、現在道立高等学校ではこの動きがあり、立ち遅れているところがある。よって先進事例・先行事例は多くあり、例えば湖陵高等学校では7月に課題研究の発表会を開催するため、北陽高等学校の教員も見学に行き、参考にしながら感覚を掴んでいきたいと思う。

(岡部教育長)

まさに湖陵高等学校は、文理探究科・理数探究科ということで探究活動をメインに据えて、昨年から進めているが、探究活動の発表会に釧路市内の高等学校教員で昨年見学に行った者は1人もいない。したがって釧路市内の高等学校は湖陵高等学校しか探究活動を実施していないのではないかと考える。探究活動を実施する場合、教員が全てを教えることにはならず、地域の企業等と結びつかなければ探究活動は無理である。地域の協力が不可欠になることか

ら、必要な際には私も協力させていただきたい。

（山口委員）

先日、教育委員４名で湖畔小学校を訪問した際に、教頭先生が地域との結びつきをコーディネートしている様子が伺えた。教育長の説明のとおり、地域人財の様々なチャンネルを使うことができれば、大きな力となって学校へ協力してくれるのではないかと思う。先ほど「ふるさとキャリアシンポジウム」と今年から名称を変え、釧路市の魅力を知って成長してもらいたいという話があったが、今、北陽高等学校の話を聞いていても、小学校・中学校・高等学校での学びから自分は釧路市内で生まれ育ったことを誇りに思い、成長することが本当の意味でのふるさとキャリア教育の根幹になるのではないかと思う。

（鈴木北陽高等学校長）

スクールミッションとしているグローバルな視点には、地元への愛着が必要である。自分の生まれ育った地域の良さを理解できなければグローバルに物事を語れないと言われている。地域を知ることと共に世界のことを考えるというような、グローカルな視点という発想は絶対に必要だと思っている。台湾との交流ともこの動きは関連性があり、総合的な探究の時間で地球的課題等を考えるときに、例えば台湾も釧路市も防災という共通課題があり、共通課題を見出すと様々な情報交換が可能となる。総合的な探究の時間を上手く活用できればと構想している。